

熊本の高フェス実行委員 2 名が県知事との懇談に参加しました。退席する知事を引き留めて用意した資料を渡し、終了後には 1 時間以上もかけて県子ども未来課の職員に活動や自身の思いなどを伝えました。連続 10 回の街頭署名や募金活動にも生徒主体でとりにくんでいます。

## 熊本私学助成をすすめる会ニュース

2023年度 第5号 2024年2月12日発行

### 実行委員 2 名が参加 蒲島知事とも対話

1月28日に熊本日日新聞本社で行われた「熊本暮らし 理想の未来」グループインタビュー（県子ども未来課主催）に、くまもと高校生フェスティバル実行委員会の生徒 T さん（高1女子）、N くん（高2男子）の2名が参加しました。この企画は、今年1月14日から2月4日まで計4回に渡り、小学生、中学生、二十歳前後、子育て中の方などにインタビューし、その意見を「県子ども計画」に反映しようという試みの一環です。この日はその2回目で、中学生に対するインタビューが行われました。当日は中学生3名、高校生3名が参加しましたが、その内2名が高フェススタッフの生徒（残り1名は公立高校生）で、街頭署名や高フェスでも活躍してくれた生徒たちです。

今回は、高校生でありながら市内中心部で大々的にイベントを開催していること、特に私学助成拡充の活動を続けていることが、高フェスの取材をした『T1パークマガジン』（テラバル自動車学校発行）の方の目に留まり、参加が実現しました。生徒自主活動部顧問とサンロード新市街、その他の方々とのつながりがきっかけとなり、私学助成拡充や高フェス開催に向けての、生徒たちの真摯な取り組みと努力が認められた結果と言えます。

インタビューには急遽、蒲島郁夫熊本県知事が参加するということが分かったため、参加する2名は、私学助成拡充を訴えるには絶好の機会として、顧問とともに事前に発言内容を準備しました。当日、自身の生い立ちを話し退席しようとする知事を T さんが引き止め、準備した高フェスの資料などを手渡していました。インタビューが終わった後も、2人は県担当者と熊日記者に対し、自分たちが取り組んでいる活動（高フェス、街頭署名等）や、これからの希望などを熱心に語ったため、予定した時間を1時間半も超過しました。

いつも私たち「熊本私学助成をすすめる会」が交渉する私学振興課ではなく、子ども未来課とのつながりができたことは、今後の私学助成拡充への突破口になり得るかもしれません。そのようなきっかけをつくることのできた今回の取り組みに対し、すすめる会としては大いに評価するものです。

### 「私学助成拡充街頭署名」10回達成！

### 同時に能登半島地震義援金募金活動も実施

前号でも掲載したように、この数年間署名数の減少が止められず何とか増加に転じたいという思いから、すすめる会では「街頭署名10回開催」を提案しました。8月19日（土）を皮切りに、8月2回、9月2回、10月3回、11月2回、そして先日1月13日（土）に10回目を実施することができました。最終日は大変寒くなりましたが、生徒13名、教員4名が参加し、152筆が集まりました。10回の街頭署名で集めた署名数は、1858筆にもなりました。

また、事前に生徒のほうから1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」に対する募金活動も行いたいとの要望があったため、署名とともに取り組むことにしましたが、義援金は3万5096円が集まりました。集まった義援金は全国私教連を通じて、被害に遭った石川県の私学に送られることになっています。

それまで受け身だった生徒が、私学助成拡充の活動を通して社会について学ぶことで、大人の予想を大きく上回る成長を見せることはこれまでもありましたが、今回の県知事とのやり取りや義援金募金の提案など、自らの意思で社

## くまもと高校生フェスティバル実行委員会

## 県主催「熊本暮らし 理想の未来」グループインタビューに参加

会に打って出ようとする成長はあまり見られなかったように思います。改めて、生徒自主活動の持つ意義を感じさせられた出来事でした。

浦島知事と夢について話す生徒ら＝28日、熊本市中央区

### 少子化対策 中高生の考えを教えて

#### 生活や夢 県聞き取り 浦島知事は講話でエール

県は28日、県内の中高生6人に現在の生活や将来の夢について聞き取り調査した。少子化対策の施策案に生かすための一環。浦島知事も生徒に夢を持つことの大切さを伝えた。

調査は10、20代の子育て世代に分け、14回実施予定。中学生以上や子育て世代約1万人をターゲットと合わせ、来年度にも公表する「県子ども計画」の反映をはじめ各施策の立案の参考情報となる。

この日は熊本市中央区の熊本日日新聞本社で、中学生と高校生が3人ずつ参加。非公開で数回の学校生活や将来の家族像、熊本の青い空を眺めながらインタビューが、学校の友だち（田代智恵）

人間関係のほか、将来への期待と不安などが話題に上がったという。参加した高1年の女子生徒は「中学生も将来を具体的に考えていて驚いた。もっと世代を越えて話し合えばいい。熊本が明るくなるように話した。」

インタビューに先立ち、浦島知事は学生時代の経験を講話。「人生の可能性は無限大。どんな逆境でも夢は見る力ができる」とエールを送った。

↑ 2024.1.29 付 熊本日日新聞



蒲島知事に資料を手渡すTさん



蒲島知事と参加した中高生



2024.1.13第10回街頭署名と第1回能登半島地震被災者義援金募金活動の様子（左や上の写真）